

中町第2-2地区周辺整備方針の概要

中町第2-2地区周辺整備事業は、交通結節点としての機能向上を図るとともに、利便性の高い地域として魅力とにぎわいあふれる街なか拠点に向けた整備を進めることを目的としています。

この概要では、「魅力とにぎわいあふれるまち」に向けた今後の事業コンセプトと6つの整備方針についてまとめています。

これまでの経緯 平成21年度に中町第2-2地区の将来像(基本構想)として「中町第2-2地区周辺グランドデザイン」を策定しました。平成24年度にはまちづくりの指針として「中心市街地の全体構想」を策定、続いて平成25年度に、中心市街地の公共施設の最適化を図るため「中心市街地の公共施設再配置計画」を策定しました。平成26年度には、文化・芸術・生涯学習・子育て機能を集約した拠点施設として「アミューアつぎ」をオープンしました。

事業区域

事業区域 4.5ha
● 公共施設
■ 民間施設

| 対象地区に立地する施設等 | |
|------------------------------|------------------------------|
| 厚木ガーデンシティビル | 厚木バスセンター |
| 中町立体駐車場 | 厚木シティプラザ |
| 保健センター (H28~29 除却予定) | 中町一丁目 臨時駐輪場 (H30 移転予定) |
| 総合福祉センター | 厚木保育所 (H30 移転予定) |
| 老人福祉センター 寿荘 (H27 除却予定) | 東側住宅地 |

イメージ

事業化戦略

中心市街地の公共施設再配置計画や総合的な交通の方針に基づき、**庁内が連携**しながら進める。

バスセンターや既存施設等の機能を保持し、サービスを継続しながら**段階的に整備**する。

市民に愛される複合施設を目指し、多くの意見を聞きながら**市民と協働**で検討する。

駅周辺のポテンシャル

小田急線本厚木駅の乗降者数14万人/日は、乗り換えのない単独駅としては、全国的に見ても非常に多い。バスセンターを始め中心市街地へのアクセス機能が集中した交通結節点となっている。駅周辺の便利機能を求め、街なか居住が進行している。

整備の視点

事業推進するに当たり、中心市街地と関係するまちづくりの計画との整合性を図りながら事業を展開することが重要。通勤通学の人々が気軽に立ち寄り、充実した時間を過ごせる居場所を創出することが重要。図書館・科学館を中心とした集客性の高い官民複合施設により、周辺の活性化を図れることが必要。中心市街地に人々を呼び込むために、あらゆる交通手段を整備し、訪れる人達のアクセス性の向上を図ることが必要。

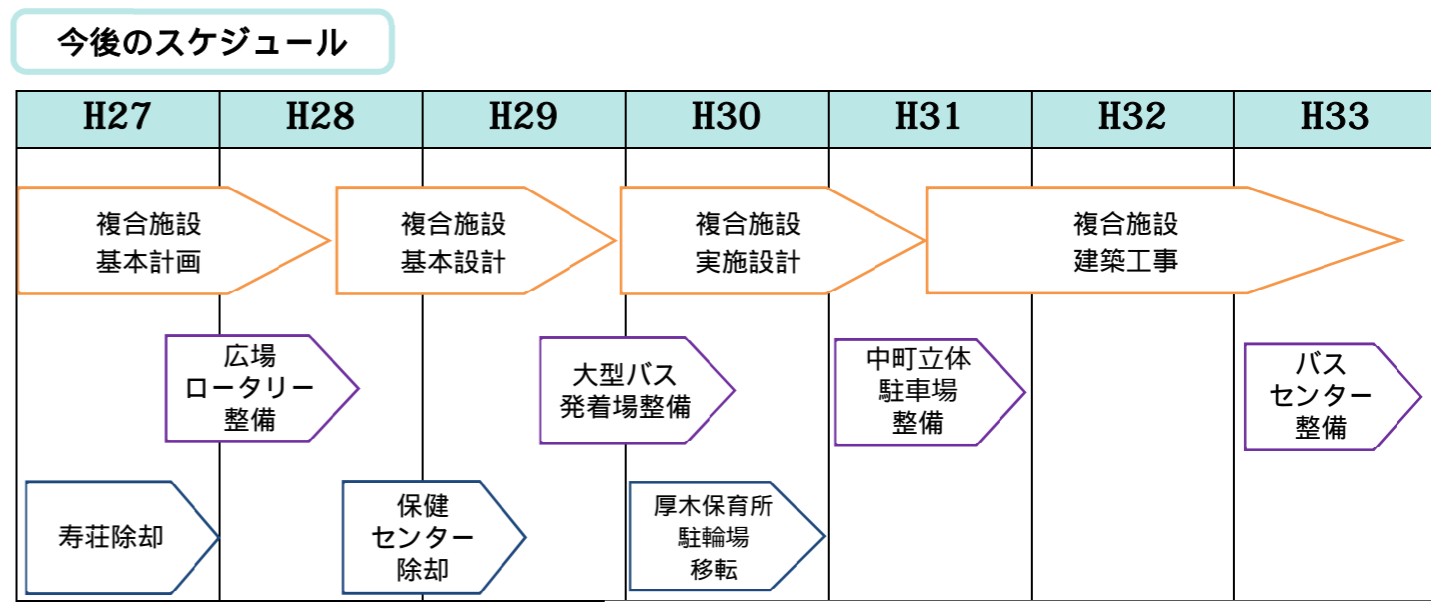
コンセプト

第3の場所づくり - the 3rd place -

サードプレイスとは、家「第1の場所」と職場・学校「第2の場所」との間にある「第3の場所」。多くの市民が気軽に立ち寄り、充実した時間を過ごすことができる居場所を創出します。

6つの整備方針

- 1 未来の**図書機能・科学機能**を核とした複合施設の新設
- 2 魅力ある**民間機能**の誘導
- 3 誰もが使いやすい**バスセンター**
- 4 アクセス性を高める**自動車・自転車等駐車場**
- 5 まちの利便性が高まる**大型バススペース**
- 6 訪れる人にやさしい**歩行者空間**



本スケジュールは、今後の事業の進捗により変更する可能性があります。

